

# どんな子みっけ!

おさらい会も終わって、もう年末。幼稚園では、今年のことは今年のうちに!そして、新しい年を迎えるための準備もして・・・園長先生も、先生たちも!走る～師走です。

ちょうどおさらい会の予行練習の頃、中学生の職場体験がありました。13～



14歳と言えばちょっと思春期に入った年齢。幼稚園の子どもたちの純粋でまっすぐなかわいさに触れて、心を解きほぐ

して過ごしてほしいと願い、先生たちは、褒めたり、頼りにしたり、得意なことを披露してもらったり・・・受け入れる際には、ちょっと工夫が必要です。

一方で、幼稚園の子どもたちは、決してイヤと言わない優しい中学生に甘えて、抱っこにおんぶ、肩車に、両手を繋いでぐるぐる回してもらったりして、激しい無理難題を言います。一人がやってもらえば、「私も!」と、長蛇の列ができたりもして、サービス精神たっぷりの中学生は、お帰りの頃クタクタになります。そして、お弁当の時間には、「中学生の隣りで食べたい!」と争奪戦が始まり、泣きだす子も出るほどです。

(「じゃあ、先生の隣りにしよー」なんて、担任の先生が補欠になったりしますが・・・) こんな風に、お弁当の時間

や、自由遊びの時に、「僕が中学生と遊びたい!」と、ケンカや泣き虫が多くなるのです。

それは、子どもたちの中に、“心の目”が育っているからではないかと思えます。普段、先生とお弁当を食べたいと、自分の隣りにさりげなくもう一つ椅子を並べて、「ここ空いてるよ～」という作戦を使ったりしますが、先生は「この前一緒に食べたから、また今度ね!」と返します。先生たちは、平等・公平に見たり捉えたりして、毅然と示しますから、それを子どもたちもよくわかっているのです。

しかし中学生ですから、どう対応しているのか迷っていたのでしょう。子どもたちはそこを見逃さず!どどんわがまを言うってしまうわけです。靴を履かせてもらったり、おもちゃ取ってきて!なんて、指示する子まで出てきて・・・子どもって本当に素直です。

そう考えてみると、幼稚園ではやっていること・できることも、お母さんを頼りにし過ぎているところがありますね!“カバンを自分で持たない!”“苦手なものを食べない!”などなど・・・

ご家族で過ごす冬休みは、まっすぐな子どもたちの“目”が、わがままになってしまわないように、お母さんも毅然と示しつつ、子どもたちの力をもう一度見直してみましょう。



照れながらも手遊びを一緒に。

# こんな

「こんな」は、ようちえんで起こる  
こんなとき・こんなこと・こ～んなにを  
折々お届けします。

## 排水溝に柿!?

ある日のお弁当の時間、手洗い場の排水溝に、4等分に切った柿がすっぽりハマっていました。「だれか落としちゃったかしら?」と声をかけましたが返事はなし。排水のふたも閉めてあったので、なにか変です。思い返してみると、お弁当の時間に席を立ったのは数人。その子たちのデザートケースを何気なくのぞくと、空っぽのデザートケースが・・・

デザートはご飯の後に食べる約束はみんな身に付いていますから、空っぽのはずがないのです。「柿が嫌いなもの?」と聞くとしぶしぶ頷き、それなら「ちゃんとお話しないとね!」と伝えました。

きっと“残さず食べたよ!”と先生に褒められたいおもいが、そんな行動を思い付いちゃったのですね。大人には簡単にばれてしまうことをしちゃう、まだまだかわいい年少組でした。



小松菜「食べられたも～ん!」と、“年中できるもん!”のまねっこをする年少組。



## お休みしたいな・・・

最近、お家で「お腹が痛いからお休みしたい」「ママと一緒にいたい！」などと言っている子はいませんか？

幼稚園ではお友だちや先生の手前、そんな姿はちっとも見せず、面白いことをしておどけてみせたりする年中組ですが、いろいろな活動に積極的に取り組めるようになった反面、“踊りを間違ったらどうしよう”とか“上手に泳げるかな”とか・・・展開を予測できるようになった心の成長が、心配となって現れてくるようです。

これは、毎年行事に向けて動いている時や苦手なことに出会っている時などに、なんとなくグズグズさんが多くなります。でも、幼稚園に来て先生やお友だちに会えば、そんな心配は吹き飛んでしまいますし、“上手にできる”ことより“頑張ろうとする気持ち”を認めて応援しますから、ほんのいつきのことだと思えます。

ですから「そうかそうか、そういう時もあるわね～」と気持ちを受け止めつつ、心配し過ぎないこと。あれこれ聞いてしまうと、あることないこと“うんうん・・・”と心配が大きくなってしまうものです。ちょっと劳わりつつ、背中をそっと押してあげて下さいね！



## 年中組



小松菜を収穫しました。年中組が育てた野菜は、苦手な子もみんな美味しい！って食べてくれます。

## 年長組



「ご飯を炊いたよ～！」こめっこの挑戦はまだまだ続いています！

## お米研ぎ博士

収穫したお米をいよいよ自分たちで炊いてみることになりました。今まで、お芋ご飯や乳がゆを作っていただき味わいましたが、今度は“自分たちで！”ということで、まずは“お米の研ぎ方”から子どもたちに問いかけてみました。



すると、「お米を研ぐときは、お釜をちゃんと持っていなくちゃいけないよ」とか「すすぐとき、お米がこぼれないように指をくっつけるんだよ」と、詳しくやって見せてくれる子がいました。その手つきの上手なこと！お母さんのお仕事を傍で見ていて、一緒にやったことがあるそうなのです。興味を持って体験したことは、みんなの前で自信をもって発表する力に繋がっていくのですね。まるでお米研ぎ博士のようでした。

そんな話を聞いて、慎重に丁寧に、お米研ぎをした子どもたち。それでも小さな手から、お米がこぼれ落ちてしまっ、思わず手を伸ばした体験も、大きな自信になるでしょう。たくさんのお米研ぎ博士が誕生した日でした

